

# 盛夏

萬歳 邦昭

膝をつき植木鉢を手元に引き寄せた。上体を屈め真由美は剪定バサミを器用に操り、葉っぱを三分の一ほどの大きさに切った。

「この鉢のサイズからすると、枝葉が成長し過ぎているのよ。これぐらいにすると、葉から蒸発する水分も抑えられ、植木の管理も楽になるわよ」

新芽が出る方向を見極め、間延びした枝を詰めた。そして鉢を廻し大き目の葉を二三枚小さくすると、後ずさりし亨に剪定バサミを手渡した。

「貴方もやっごらん。夏は植木の剪定をする時期じゃないが、この夜香木は肥料も水も遣り過ぎて野放図に成長したのよ」

「日射しに曝され葉が萎れ、可哀想だから水を呉れたままで、無闇に遣ったわけではないよ」

日ごろから植木に水を遣り過ぎる、と注意されている亨は抗弁した。

「花を楽しむ植木は、生かさず殺さず育てるの。根は水を求め成長し、木は子孫を残そうと必死になって花実を付ける。」

よく言うでしょ『姑の嫁いびり』これが水遣りの秘訣。この間も言ったでしょう」

鉢の表土が乾くと水を遣っていた亨はハサミを受け取ると植木鉢を回転させ、葉っぱを詰めはじめた。ぎこちない手付きで詰めた葉は、正月の空に舞い上がる凧のように角張った形となった。

「貴方も不器用ね。もう少し丸みを付けて、葉らしく形を整えられないの？ これじゃ見た目も悪いし、切り口から毒がはいるじゃない」

「見た目はどうあれ愛情だよ。優しく心を込めて葉っぱを切ったから、気持ちには植物にも伝わるよ」

亨は顔も上げずに葉を詰め続けた。中途半端に上体を折り曲げた作業に、痺れた体を伸ばし真由美を見詰めた。真由美に笑もなく視線すら合わせてくれなかった。

藍賀亨は退職後はじめた生涯教育の講座仲間と二年目の区切りに海外旅行をした。バックパック姿で成田からの帰り、弓と矢を携えた婦人が途中駅から乗ってきたのを亨は目にした。同世代と思われる婦人は弓道の正装、着物に袴姿である。

懐かしかった。悟られぬよう眺めていた。夕方この時間、試合を終えての帰りであろうか。亨も四〇代までは熱心に道場に通い県大会に出場もしていた。仕事が忙しくなり弓道から遠ざかり、復帰することはなかった。婦人は背筋を伸ばし

凛々しい姿で立っていた。段位だけでなく称号も持っているであろうと思われた。その婦人は亨と同じ駅で降りた。

地区連合町会の避難訓練で、またその婦人を見かけた。炊き出し役を担っている。町会は違うが亨も役員をしている。その後も連合町会の会合でその婦人と度々顔を会わせ、弓道の話で親しくなった。婦人は橘真由美といい、線路を挟んだ反対側に住んでいる。木立に囲まれた高台にある三階建てハウスの一面に住んでいた。神戸の実家を模したという庭。大輪の赤や淡い黄色の薔薇が柵に絡み、職人の手で剪定された松の下には鉢植えのラン類が並んでいる。

連合町会が主催する秋の防災訓練のあと、鉢植えした夜香木の幼木をあげた。南国育ちで緑白色の可憐な花を年に幾度も付ける。

翌年の梅雨のころ、真由美から満開の夜香木が写真メールで送られてきた。香りが漂うばかりの写真である。それに比べ、亭の夜香木はみじめであった。間延びした葉の付け根に僅かばかりの花を付けただけである。送った写真メールを見て電話が来た。

「写真で見る限り、根腐れを起こしているかも。鉢から木を抜いて根の様子を見たら」

真由美の見立てに亨は、

「一昨年の暮れ、腐葉土を敷き保水性の良い土に植え替え、昨年は花がたくさん咲いたのに今年は勢いが無いんだ」

「そおつ。こんど伺ったとき詳しく見せてもらおうから」  
真由美は忙しそうに電話を切った。

夜香木の剪定をしてから二カ月が過ぎ、今年二度目の花を付けはじめた。枝の先から順に葉の付け根に、ぶどう房のように無数のつぼみが付いてきた。真由美の言葉に従い剪定と土を取り替えたのが良かったのかもしれない。

暑さも本格的になった夜、ラッパ様の花から、情欲をそそる香りが漂ってきた。窓から侵入する空気が、匂いに麻痺した鼻腔を揺り起こす。えも言われぬ夜香木の香りに包まれ、亭はベッドに横たわると深淵の世界に引きずり込まれていった。

うとうとしながら夢をみていた。人気のない花園で女性に出会った。小径ですれ違い、振り向くと木の下で手招きをしている。体付きや身のこなし、仕種に見覚えはあるが思い出せない。声は聞こえず表情も定かでない。招かれるままに駆け寄るが距離はいつこうに縮まらない。手が触れそうになると離れて行く。姿が見えなくなり、どこからか携帯電話の音がした。急かす響きに目が覚めた。途絶えていた真由美からのメールであった。

「夜香木は咲きましたか？ 花香を堪能していますか？ 水の遣り過ぎと健康には、くれぐれも留意してネ」

入院しているとのメールが来てから久々である。どこの病院か、症状や病名について何も触れていない。